

平成29年度 福井県羽水高等学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 学習指導	教科・学年会と連絡を密にして、学力向上を図る指導体制を工夫する	本校の学習指導に関して、保護者・生徒のほとんどの評価が目標数値を上回っている。しかし、生徒の授業理解は、1・2年次においてやや低い数値が出ている。このことをふまえ、授業内容の工夫などについて、生徒の実態をふまえた改善・検討が必要と考えられる。	年度当初に生徒に配布する授業計画に従い、課題の出し方や確認を適切に行う。また定期的に教科会、学年会等で生徒の実態にあう授業内容、評価基準、学習指導等を確認しながら検討していきたい。特に、1年生には中学校から高校への導入学習を丁寧に指導することで、高校の授業への意識付けを図りたい。
	生徒の学習意欲を高め、自主的に学習する態度を身につけさせる。	平日の家庭学習の定着率は約71%で目標指数の80%に及んでいない。特に1・2年生の家庭学習が不足しており、生徒の実態にあう課題、家庭学習につながる課題の提示等をさらに検討する必要がある。	進路実現のための自主的な学習の重要性を自覚させ、家庭での学習時間を増やして、意欲的に学ぶ習慣をつけさせる。担任との面談の機会を充実させて、生徒が自ら学ぶ手だてや方法を学ばせたい。さらに学習と進路に関するアンケート結果を詳細に分析して、今後活かせるよう活用していきたい。
2 生徒指導	登校指導、風紀指導を通して、挨拶の励行、時間の厳守、身なりの端正化などを身につけさせる。	遅刻する生徒は非常に少ない。朝学習開始時刻を守る生徒がほとんどである。挨拶の励行、身なりの指導、時間の厳守など、すべての面でかなり達成されているようだが、スマホの使用状況があまりよくない。	今後も油断せず登校指導、風紀検査、生徒会活動を通して、根気強く指導を続けていく。他の項目についても、現状通り継続し、指導の不十分な一部の生徒に対しても根気強く行うことが必要である。
	学校行事や部活動などに積極的に参加させることによって自主自律の精神を養う。	教職員・生徒・保護者ともに学校行事や部活動に対する関心・意欲・取り組みはかなり高い。土、日でも学校での活動が多いため、学校内が活気に満ち溢れている。	関心や取り組みはかなり高いが、積極的に参加する生徒の数を増やすためにそれぞれの活動の場で工夫する必要がある。今後とも継続して指導していきたい。
3 進路指導	進路講演会、オリエンテーション、総合的学習、面接指導等を通して進路意識の向上を図る。	保護者対象進路説明会等で、必要な進路情報を得られていると感じている保護者の割合は、どの学年でも90%前後と高い。また、生徒の進路目標を持つ割合(79%→86%→96%)や、それを保護者が理解、把握している割合(80%→91%→96%)も、学年が進むと共に上昇している。今後とも、保護者や生徒に対して、必要とされる進路情報を、適切な時期に、内容を精選して提供することを目指す。	各学年の特性に合った進路意識の向上を目指す。 1年生では社会人講師による講演会、看護体験等を通じた職業観の育成を図る。2年生では卒業生と語る会、学部学科研究、志望大学のオープンキャンパスへの参加促進等により進路意識の高揚を図る。3年生では進路講演会、小論文演習等による入試研究を充実させる。
	生徒の実態に即した進路情報の提供を行い、進路に関する入試情報誌や大学案内を充実させる。	3年生では、進路情報の活用頻度が高い(85%)。1,2年生では、3年生と比較すると活用が少なく、自ら調べようとする意識も低調(57%,65%)であるが、昨年度の同学年と比較すると上昇傾向にある(1年生では10%増)。今後とも、総合的な学習の時間等を活用して、低学年から進路情報を活用した進路学習の実践を続ける必要がある。	進路情報を提供するだけでなく、その活用についても指導していく。特に1年生2年生からの進路意識の高揚を目標として、「総合的な学習の時間」での進路学習や「面接週間」等で、精選した入試情報を提供し、それを活用するよう担任に働きかける。 3年生では、個々の生徒に応じて必要とされる入試情報を提供する。進路指導室の入試資料の充実を進める。
4 保健衛生 指導	担任・副担任・保健室・相談室が連携をとりながら、個々の生徒に応じた保健指導を行う。	いずれの学年においても、生徒・保護者とも本校教職員に対する信頼度は高く、満足のいく結果が得られている。ただし、ごく少数ではあるが、教員の対応に不満を抱える保護者・生徒がいることを受け止めて、引き続き今後の課題とする。	今後も保護者・生徒との意思疎通を密にし、学校の対応への不満がないよう問題の早期発見・早期対応に努めていきたい。

	清掃指導の充実を図ることによって生徒の校内環境美化の意識を高める。	教員の清掃指導・監督に対する意識は高く、清掃活動を重視する姿勢が現れている。また、9割以上の生徒が毎日の清掃に真面目に取り組んでいる。真面目に取り組めなかった生徒に対して、継続的に学校全体で清掃活動に取り組む意識を高めていく必要がある。	今後は、さらに全員が自ら進んで清掃に取り組む姿勢が身につくよう、委員会活動（ポスター掲示、定期的な清掃点検）などを通して意識の向上を図りたい。	
項目	5 図書指導	朝読書週間の企画、校内読書感想文集の発刊などを通して、生徒の図書館利用を促す。	朝読書を楽しんだ生徒は86%で、朝読書週間が定着してきていると思われる。教科や総合等での図書館利用が増え、それに伴って貸出数も増加した。一方、家庭での読書習慣がない生徒は約半数いて、今後の課題である状況は変わっていない。	ロングホームの時間にビブリオバトルを実施するクラスをさらに増やし、読書習慣をさらに多くの生徒に身に付けさせたい。朝読書週間にもかわらぬ読書にしっかりと取り組めていない生徒には、いろいろと工夫しつつ読書を促していきたい。
		生徒や教職員に必要な図書の充実に努め、情報提供を行う。	生徒のリクエストを重視した図書の購入を行う等、蔵書に対する満足度を上げる方策をとってきた。しかし生徒の満足度は全体としては昨年度と同じである。3年次には、受験に向けての図書利用が増えて、満足度も上がるようであるが、1・2年次の満足度を高めるための方策が必要である。	生徒の読書傾向のリサーチや話題の本の情報収集を続け、人気のある本については複数冊置くことを継続していきたい。授業内容と関連した書籍の情宣や、県立図書館との連携を強化し、本校の蔵書にないものも生徒が利用できるようにして、満足度を上げていきたい。
6 外部との 連携		育成会や同窓会活動の活性化を図るとともに、本校の教育活動について家庭・地域への周知に努める。特に育成会関連の行事を緻密に実施して絆を深める。	本校の情報提供満足度（保護者対象）も目標指数を上回り93%と高い数値を示している。保護者への配布物伝達度（生徒対象）についても、昨年に引き続き目標数値を上回り、生徒を通じて家庭とのよい連携が築けているのではないかと考えられる。本校の教育活動情報提供度（教職員対象）については目標指数100%に届かず、10%の教員が「あまり提供していない」と答えている。今後さらに、本校教育活動の情報を、保護者・地域に対して丁寧提供していく必要がある。	今後とも、学校と家庭との連携を密にしていきたい。そのため育成会活動のさらなる活性化を図り、開かれた育成会として保護者の積極的な参加を促すよう、綿密な情報提供を必要とする。さらに、学校を側面から支える大きな力として、同窓会との関係を深めていくとともに、同窓会活動をより活発にしていきたい。
		中学校訪問、学校説明会等を通して本校の特色のアピールに努める。	本校では、部長主任が年に約2回各中学校訪問し本校の実情を説明している。夏に羽水高校説明会を実施し、生徒会や代表生徒を通して本校の特色を伝えるなど、本校のPRができていると100%の職員が感じている。	今後も羽水高校説明会や中学校訪問などを通して、積極的に本校の広報、アピールに努めていきたい。また、広報誌や学校紹介DVDをさらに中学生にとってわかりやすく充実したものになるよう工夫していきたい。
7 人権教育 の推進	学校の教育活動全体を通じて、人権感覚の育成に積極的に取り組む。	生徒一人ひとりを大切に丁寧な教育活動をすすめる、保護者・生徒の評価も高い。他人を中傷したり、いじめたりする生徒はほとんどいないが、生徒同士のトラブルや、教員との軋轢が全くないわけではない。むしろそうしたトラブルを乗り越えていくことで成長し、人権意識も育っていく。あらためて教員自身の人権意識が空洞化していないか、見つめ直す必要もあるのではないかと。	今後も人間関係づくりを意識し、満足度の高い学級経営を推進する。SNS等による見えにくい関係にも留意しながら、他人への中傷やいじめの予防となるよう人権意識の高揚に努めていきたい。	